

お父さんの仕事を見て

白山中学校 二年 山田 琴菜

私の父は、介護施設の施設長として働いています。

この夏休み、私は父が施設長をしている介護施設に何度もお手伝いをしに行きました。父の仕事の話はよく聞いていたけれど、実際に現場を見るのは初めてでした。最初は「施設」という言葉に少し堅いイメージをもっていました。しかし、施設の中にはいると意外と明るく、入居者の方々の笑い声や楽しく話す声が聞こえ、安心できる雰囲気でした。父は仕事が忙しそうに職員さんと話をしたり、入居者の方に声をかけたりしていました。その姿を見て、施設長という立場はただ指示を出すだけではなく、入居者の方々と職員さんの両方に寄り添い、全体を支えているのだと気づきました。普段家では見られない父の姿を見てとても誇らしく感じました。

お手伝いをしていて特に印象に残ったのは入居者の方々がみんな笑顔で過ごしていたことです。職員さんたちが一人ひとりに声をかけたり、一緒に体操をしたり歌を歌ったりしていて、その様子が家族のような温かさを感じました。

私もレクリエーションに参加させてもらい、簡単な体操や工作をしました。最初はとても緊張しましたが、回数を重ねるごとに入居者の方々に「来てくれてうれしい」「次はいつ来るの?」「待ってたよ」など、温かい声をかけてもらい、たちまち気持ちがあぐれました。小さな交流でも相手を笑顔にできることを知り、介護の仕事には人を元気にする力があることに気づきました。

それから、職員さんたちの働く姿にとっても心を動かされました。食事の準備や片づけ、入居者の方々の体調チェックなど、たまに冗談を言ったり笑い、どの仕事にも一つひとつ丁寧で、入居者の方々が楽しく安心して過ごせるように、細かいところまで工夫されていました。例えば、食事のときには一人ひとりの様子を見て、食べやすいように手助けをしたり声をかけたりしていました。この体験をおして、一人ひとりに寄り添うこと、相手の立場に立つ気持ちの大切さを学びました。

父がよく「介護は笑顔にね」と言っていたけれど、その言葉の意味がこの見学をとおして少しわかった気がします。介護の現場では大変なこともあるけれど、最後には入居者の方々の笑顔につながるように、工夫したり頑張ったりすることが大事なのだと感じました。その笑顔を見ることで、職員さんたちもまた元気をもらっているのだと気づきました。

そして、その中心で父が職員さんたちを信じて、支えている姿を見て、私は改めて父の仕事の大切さを感じました。父が毎日遅くまで働いていて大変そうだと思っていましたが、この光景を見て初めてその理由を心から納得することができました。見学を重ねるたびに、父や職員さんたちへの尊敬の気持ちが強くなってきました。

この夏休みをとおして、私は父の仕事の大切さをこれまで以上に身近に感じることができました。入居者の方が安心して暮らすためには、たくさんの方の努力や工夫が必要で、それを毎日続けるのは決して簡単なことではないと気づきました。でも、父や職員さんたちが力を合わせて頑張ることで施設は温かく、居心地のよい場所になっているのだとわかりました。私は父に対して、これまで以上に強い尊敬の気持ちを持ちました。そして、多くの人のために一生懸命働いている父に「ありがとう」と伝えたいです。今回の経験をとおして、私も人の役に立つことの嬉しさを少し知ることができました。これから先、どんな道に進むかわかりませんが、父の姿を心に残し、自分にできることを一つひとつ見つけていきたいと思います。